

交通事故で一人っ子を失った親の生活状態に関する研究  
—中国江蘇省「失独者」の人間関係に焦点をあてて—

立命館大学大学院  
応用人間科学研究科  
対人援助学領域  
家族機能・社会臨床クラスター  
陳 揚

「失独者」とは、一人っ子が病気、交通事故、犯罪、仕事、自殺、災害等の原因で死亡し、年齢或いは他の理由で子どもをもつことが不可能になり、永遠に子どもを失った50代以上の親のことをいう(柳、2012)。中国では、現在、毎年7.6万「失独家庭」が増えている。年々上昇している交通事故による「失独者」たちは、大事な家族の命を奪われ、家庭構造が大きく変化するなかで、十分な社会的支援も得られないまま、家族関係、社会関係ともに危機的状況に陥っている。

交通事故によって愛する子供を突然失うことは、遺族に多大な精神的苦痛を与える。平成23年の内閣府交通事故被害者サポート事業報告書によると、いかなる形であっても、死はその身近な人にとって苦痛で耐えがたい思いが強いものであるが、病気と異なって事故の場合は突然で予期しない形で現れ、また、加害者が存在しなければ起きなかったという気持ちから、死を受け入れにくくなり、複雑な葛藤を生み出すことになる。

中国には親は子供に対する注目は普通より多いので、子供が亡くなった事実が親に与えるダメージは普通より大きい。特に生育できない家庭は、このダメージによって、精神問題が生まれる可能性も多い。筆者は単なる社会や政府からの支援方法を研究しても、当事者に合わない可能性が高いと考えた。故に中国江蘇省南方地域で交通大隊や女性児童センターと友人の紹介から200人程度の交通事故による失独者と連絡を取り、他人と直面することに対する拒否感や不信感のため協力を断られ、最終的に5人の協力者に対する半構造インタビュー調査を行った。インタビューによって、対象者五人は事故後家庭構造が破壊され、家族関係も変化した。その後、社会関係にも影響を及ぼし、旧人間関係全部が変わった後、新しい人間関係を作ったことが分かった。

「失独者」にとって、事故についての辛い感情が全くなくなるということは不可能である。できるだけ早く普通の生活に戻りたい「失独者」が通常生活との再結合に至るためには、人間関係の維持と変化の両方が必要と思える。「失独者」たちの人間関係と生活状態を分析し、人間関係を形成するプロセスを研究する中で、「失独者」の状態改善に大きく役立っていた外部支援も知った。中国には客観的な社会制限があるが、親たちの生活状態は周辺人間関係とかかわることが明らかになり、支援が不十分でも「失独者」の状態が改善できる事実も得た。この人間関係は「失独者」たちの精神状態にも影響している。遺族に対する援助の中で人間関係変化プロセスを利用し生活精神状態を安定させる方向は、安全な手段と筆者は考えた。